

一人ひとりが ともに輝くために

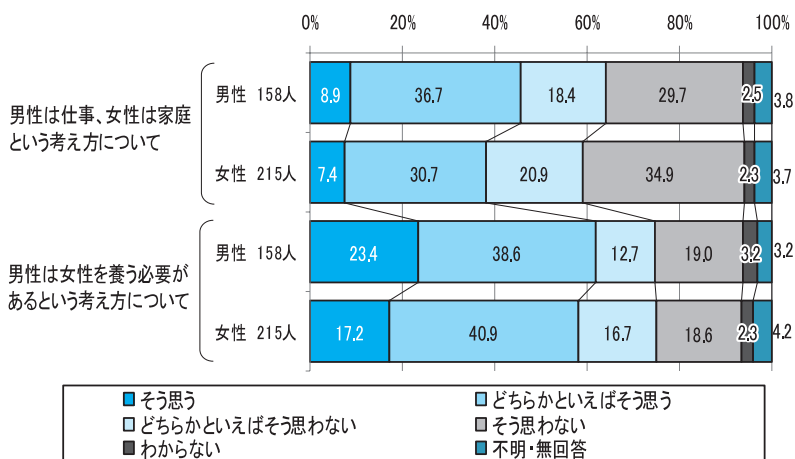
平成24年4月から、「第2次たけはら21男女共同参画プラン」がスタートしました。

本プランの策定にあたり、市民意識や実態を総合的に把握するため、市内1,000人の男女を対象に「男女共同参画社会に関する」意識調査を実施しました。

調査結果から、人（男女）がともに輝く関係について考えてみましょう。

市民の意識は？

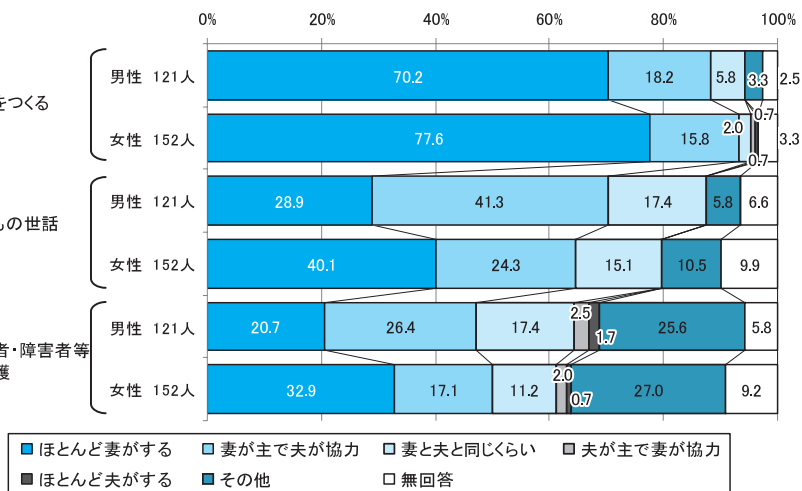
グラフ①の「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についての調査結果では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」との肯定的な回答は男性45.6%、女性38.1%となっており、時代とともに意識の変化はみられるものの、男性の4割以上は肯定的な意



▲グラフ① 役割分担意識について

識をもつ結果となっています。また、「男性は女性を養う必要がある」という考え方については、男性も女性も約6割が肯定する回答となっており、これらの結果から、性別により役割を固定的に考える意識は男女ともに根強く存在していることがわかります。

家事や育児・介護といった日常的な役割分担の現状においては（グラフ②）、「食事をつくる」で「ほとんど妻がする」が男女とも



▲グラフ② 役割分担の現状について

「男性は力強く、家族を養うものだ」「女性は控えめで、家庭を守るものだ」といった男女のイメージは、少なからずだれもが持つて

長い時間の中で作られた意識

「男性は力強く、家族を養うもの」にも高く、「子どもの世話」や「高齢者・障害者等の介護」では、男性と女性の意識の違いがみられ、男女が対等な関係を築くためには様々な課題が残されている結果となっています。

男女がともに支えあうまちへ

本プランでは、「男女がお互いを認めあい、ともに支えあう、だれもが幸せを感じてくらせるまちたけはら」を基本理念とし、男女共同参画社会づくりの推進に取り組んでいます。

男性と女性が能力を出しあい、一緒に考え、支えあい物事を決める社会、それは大人も子どもも高齢者も障害者も外国人もみんなが生きやすい社会なのです。

みなさんも、家庭や地域、学校、職場で身近な人（男女）との関係について考えてみませんか。

